

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	■知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題：準備を早くする 着替えや給食の準備がゆっくりの為、本人のしたい活動ができていなくて、イライラしてしまうので、準備を早くして活動するのが課題である。
	• 自立活動の目標	• 時間内に準備し、アクティビティやエンジョイタイムに参加する。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
	• 支援の手立て	• タイムタイマーを使って時間の感覚をつかんでもらう。 • 何分までに終わればよいという紙を提示して、意識して行動してもらおう。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• 時計が読めるので、具体的に「〇分までに着替えたとアクティビティやエンジョイタイムに参加できる」と伝えたと、少し早くできるようになった。 • 早くやりたいから、着替えたと言ったことあるが、説明をすることが大事。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• ホワイトボードに〇分からエンジョイタイムと書いておくと、それまでに戻ってくるが多い。 • タイムタイマーを使うことで、動きが早くなった。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	SST • 時計がどの部屋にあったら良いのか、どの先生が時計を持っているのか、どうしたら時間がわかるのかを一緒に考える。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期になってから提示した時間や、タイムタイマーを利用しても時間内に戻ってくることが少なくなっている。 ・時間内に戻ってくることもある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたい活動を促したり、言葉掛けをしたりしたが、効果が得られなかった。 ・時間内に戻ってくる傾向を理解することが難しかった。 ・2年生になりたいというモチベーションがあると、時間内に行動することができた。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りからの声掛けで、時間を意識して行動できるようになる。

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題：身の回りの整理整頓、学校生活の中で一つひとつの行動をこなしていくことに課題がある。 次の行動や瞬間、瞬間の出来事に気を取られ、目の前のやることがおろそかになる
	• 自立活動の目標	丁寧な言葉や所作を身につける。
	• 上記目標に対応する区分	<u>健康の保持</u> 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> • 適切でない言動があった場合は、その場で伝え指導する。 • 適切な言動ができたときは、具体的によかったところを提示して褒める。 • 一つひとつできることを増やしていくように支援する。 	
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> • 授業場所やおおまかな学校生活の動きは把握し行動することができているが、連絡帳を決められた場所に置く、給食の片づけをするなど、自分でできることをおろそかになってしまう。 <p>自分のことは自分でやり生活リズムを整える</p>
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	生徒本人が自ら進んでできるような言葉かけ（何度も言わない、淡々という）などでスムーズにできることもあった。継続してプラスで支援していく必要がある。

グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等	根気強く支援が必要。
2学期の振り返り	・児童生徒の様子、変化 ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等	学校生活に慣れ、友人や教員の関わる幅も広がってきた。いいことであるとともに、より自分のことクラスのことをおろそかになる場面も見られ始めた。 帰りの準備の流れなど視覚的に行動一つひとつ提示することで、それを守るように自分で動くことができるようになった。行動を整えることで思考が整理されたような感じがある。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等	継続して支援すると、行動が定着してきたのでこのように一つひとつ定着を図ってできることを積み上げていくことが必要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・机の上の筆記用具等、チェックリストをみて、自分で片付けることができた。 ・携帯電話の管理ができるようになった。 ・自発的な片付けには引き続き支援が必要。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・参考になった支援方法等 	必要性を伝える。 →整理整頓・物の管理をなぜしなければならないかを具体的に伝える。 意識させる。
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	教員の言葉がけがなくても、物の管理を自分でできるようになった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	置き場所を明確に示すことで適当に物を置くことが減って、自分でどこに何を置いたかを把握することができた。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	チェックリストを活用し、荷物の整理整頓をすることができた。教員が促す前に、気づいて片付けることができた。 今後の目標として、置き場所や順番を意識し、見通しをもって丁寧に整えることや、継続して取り組む必要がある。

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	• 朝と帰りの持ち物整理を、見通しを持って行うことがまだ難しく、持ち物整理を終える前にバランスボールに乗っていたり、廊下に出て行ったりしている。教員が声をかけると戻ってくる。
	• 自立活動の目標	• 見通しを持って朝と帰りの用意に取り組むことができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 <u>環境の把握</u> 身体の動き コミュニケーション
• 支援の手立て	• 持ち物の写真カードをボードに貼り付けた、持ち物チェックボードを用いた支援を行う。朝は全てのカードを貼った状態で、カバンから出して整理ができたものから外していくように促す。帰りは全てのカードを外した状態で、カバンに入れたものからボードに貼っていくように促す。全ての荷物の整理が終わったら本人の好きな活動に移ることができるように環境を整える。	
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	【様子・変化】 • 4月当初は「タオルを出す→カバンのカードを外す」というように、持ち物とカードの不一致がよく見られたが、継続して取り組むことで持ち物とカードを一致させることができるようになった。 • すべての荷物の整理が終わると、自分で持ち物チェックボードを机の中に片づけて、歌絵本をしたいと教員に伝えられることもあり、持ち物チェックボードのルールが理解でき、少しずつ見通しを持って朝と帰りの用意ができるようになってきている。 【課題】 • 教員が他の生徒の対応等で数秒、本人のそばを離れると持ち物の整理を中断してどこかへ行ってしまう。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月当初には持ち物とカードの不一致がよく見られたため、持ち物を置く場所に同じ持ち物カードを貼り付けて、整理をしながら持ち物とカードの一致を促したところ、徐々に持ち物とカードが一致するようになった。 ・ 持ち物の整理が終わっていない状態で歌絵本を楽しんでいることが何度もあったため、歌絵本は基本的に教員が預かり、本人が整理を終えたら渡すように本人が集中しやすい環境を整えたところ、荷物の整理を終えたら好きな活動ができることを本人が理解し、持ち物の整理を終えたタイミングで、歌絵本を渡してほしいと教員に伝えられることもあった。 <p>【課題に対する取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員が他の生徒の対応等で数秒、本人のそばを離れると持ち物の整理を中断してどこかへ行ってしまうことへの今後の取り組みとしては、教員が意図的に本人から離れる機会を設け、教員が数秒離れていても一人で荷物の整理を継続する練習を行う。少し離れて様子を伺い、一人でできたときには褒めるようにする。教員が離れていても本人が一人で荷物の整理ができる時間を徐々に長くしたい。
<p>グループ討議</p>	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考になった支援方法等 	<p>SST の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チェックボードを用いていることで見本の提示をしている。 ・ 持ち物の整理が終わった後、自分のしたいこと（歌絵本やバランスボール）を指さして選んで教員に伝えている。
<p>2学期の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の用意では「カバンをおこう」「連絡帳をだしてね」等、教員からの口頭指示があれば一人で用意を進められるようになってきている。 ・ 帰りの用意では、教員の言葉かけがなくても自分で給食袋や水筒を取りに行く場面が見られるようになった。帰りのほうが本人のモチベーションが高いことも関係していると思われる。 ・ チェックボードの使用によって用意の流れが少しずつ身について、徐々にチェックボードがなくても自分で進められるようになってきている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期は荷物の出し入れ、提出、整理を教員が横について行っていたが、2学期以降、少しずつ教員が本人から離れて様子を見る時間をつくるようにした結果、口頭指示がよく通るようになってきた。 ・ 本人はチェックボードがなくても一人で用意を進められる場面が出てきたが、気持ちが他に向いて進まない様子の時は再度チェックボードで流れを示すようにした。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徐々にチェックボードを提示せずに口頭指示で用意を再開できるようになる。 ・ 十分な睡眠をとることで覚醒が上がり、活動に向かいやすくなることが課題である。(家庭との連携)

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	急に走り出したり、高い場所に登るなど、衝動的な行動を自分でコントロールすることが難しい。
	• 自立活動の目標	朝の活動準備、休み時間、給食の準備など、教員が近くにいなくても自分で活動できる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 <u>環境の把握</u> 身体の動き コミュニケーション
	• 支援の手立て	特別教室やトイレへの移動など、限定された場面での活動では、一人で行動するように促す。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	教員と約束しておく、食缶を入れるカートまで持っていき戻ってくるができる。教員が見守っているが、今後は友だちと一緒に行く、教員が見守らずとも戻って来られる、ようになってほしい。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	衝動がなくなったわけではないので、約束していない場面ですぐ勝手にその場を離れていくことなどがある。やるべきことを約束しておくことが効果的だった。途中で気になること、トリガーがあるとそちらに気を取られることがある。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	行動する内容を約束するなど SST をしている。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<p>教員と約束しておく、食缶を入れるカートまで持っていき戻ってくるができる。一人でカートまで行って、寄り道することはほぼなくなってきた。見守りは継続している。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<p>同じシチュエーションのときに繰り返し指導したのがよかったと思われる。不穏なときは、落ち着くように深呼吸をしたり、横になったりして休憩することを促した。</p>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員とやりとりすることで、自分の気持ちを言語で表現できるようになってきた。また、教員との接触遊びで関わり、気持ちの切り替えができた。今後とも適切な関わり合いの機会を持つことが必要である。